

新発田市 令和 2 年度 第 6 回定例記者会見

- 1 日 時 令和 2 年 10 月 9 日（金）午前 11 時～
- 2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室
- 3 内 容

- 蔵春閣移築工事・安全祈願祭
- おくやみコーナーの設置
- 特定空き家等の行政代執行
- 小学校 5 校の閉校記念式典
- 荒橋小学校閉校記念事業「気球搭乗体験」
- 夏井いつき「句会ライブ」
- 市民文化会館「会館ピアノ」
- 「文芸しばた」第 46 号発刊
- 市成人式レンタル衣装キャンセル料の助成
- 荒川剣龍峡紅葉ウォーク

あいさつ

- 秋めいてきたというよりは、寒くなってきたといっても良いかもしれませんが、少し前までは大変な猛暑で、グレタトゥーンベリさんが言うのは本当だな、地球大丈夫かなといった心配をしていましたが、やっぱり秋になればそういう模様になるんだが改めてと思っています。
- 季節が移っても、変わらないのはコロナです。まだ収束という状況ではなく憂慮しています。また、台風第 14 号のことが心配ですが、太平洋側に向かうとのことで、新発田には影響はないのではないかとと思っています。
- 台風 14 号の別名は「チャンホン」で、ラオス語で白檀のことだそうです。以前、新型コロナウイルスの関係で心配になると、手を合わせに行くのが菅谷不動尊であるとお話したことがあります。ここのご神体は白檀でできています。
- ご神体は、1221 年の承久の乱に巻き込まれて消失をするわけですが、今はちょっと焼けて墨状態で御神体が残っています。台風 14 号がチャンホン、白檀だということをついつい菅谷のお不動様を連想しましたが、いずれにしても新型コロナウイルスの感染者は今のところありませんが、油断することなくしっかりやっていきたいと考えています。

- 災い転じて福と為すと言うのでしょうか、コロナ禍だからこそやるべきことがあるのであろうと職員には、改めて人の命の尊さ、そして新発田の物産を見直す、その契機にしようじゃないかと話し、「今得キャンペーンプラス」を実施しています。
- これが観光客に大変好評であるということを知り、大変喜んでおります。とりわけ新発田は食の循環によるまちづくりに取り組んでいます。トップセールスに行くと、「新発田は何がありますか」と聞かれます。
- 月岡温泉は硫黄含有量が全国 2 番目、山から海までの大きな自然がある、城下町としての風情があるなどと話しますが、結局は食の話になります。アスパラガスや越後姫がありますが、やはりメインにはなれないということで、コロナ禍を契機に新発田産和牛を前面に押し出していきます。
- 新発田市は隠れた畜産のまちで、和牛は県内で出荷頭数はトップです。ところが、ブランド化には年間 200 頭の出荷が必要で、村上牛は、胎内・関川を含めた 1 つのエリアにして売り出しています。
- 当市は、出荷数が 160 頭ほどで、ブランド化できませんでしたが、東日本大震災で福島から新発田に来られた畜産農家の方が、新発田ブランドのお手伝いをしてくださると聞いていますので、もしかしたら来年あたりから、「新発田牛」がブランド化できるといいなと考えています。
- このことから、今得キャンペーンの土産品に和牛を入れさせていただいているところです。10 月 20 日の臨時会を開いて緊急経済対策第 8 弾を上程させていただきます。ぜひ、ご取材をお願いします。

それでは、会見項目を説明いたします。

初めに、「蔵春閣移築工事・安全祈願祭」について

- 大倉喜八郎の別邸「蔵春閣」の移築・復元に向け、既に 9 月から周辺地域住民の皆様への事前説明会の開催や地盤調査などを終え、いよいよ本格的な移築工事着手へと進んでいます。

- 10月19日（月）には、大倉喜八郎氏のひ孫にあたる大倉喜彦さんをはじめ、公益財団法人大倉文化財団の皆様や大成建設株式会社代表取締役会長山内隆司さんなど、関係団体のトップの皆様が参列し、蔵春閣移築工事の安全祈願祭が執り行われることになりました。
- 当市が生んだ大実業家 大倉喜八郎が、国内外からの賓客をもてなすために、今の皇居の前身となる明治宮殿の建設様式を取り入れて、当時の和洋の技術の粋を凝らした向島別邸の一部「蔵春閣」が140年の時を経て、喜八郎の故郷の新発田市に移築復元されます。
- 移築・復元によって新たな日本の宝になると評される蔵春閣を見たい、利用してみたいとの声は市民をはじめ、多くの皆様から寄せられ、当市に新たな蔵春閣という魅力が加わることへの期待の大きさを感じています。
- 報道各社の皆さんにおかれては、引き続き、蔵春閣の復元に向けてご支援いただきたいと思います。なお、安全祈願祭の取材については、関係者にご高齢の方が多いため、三つの密を避けるため、事前申込制とさせていただきますこととしていますので、何卒ご理解ご協力をお願いします。

次に、「おくやみコーナーの設置」について

- 親族などを亡くされた方々が市役所で各種手続きをされる際に、専門でサポートをする「おくやみコーナー」を来年2月から試行し、4月から本格的に設置することにしました。似通ったサービスを実施する自治体はありますが、専用コーナーを特設するのは新潟県内では初となります。
- 具体的には、死亡届提出の際に、市がお渡しするおくやみコーナーのパンフレットを葬儀関係者などから、ご遺族に案内していただき、後日、ご遺族より希望日を予約いただく方式をとりたいと考えています。
- 予約制として、対応時間を十分に確保して話をお聞きします。ひとりの方が亡くなることに伴い、相続や納税などに関係した名義変更や国民健康保険、後期高齢者医療制度などの葬祭費の支給申請、また、手当の資格喪失届など、現在15の関係各課において、50にも及ぶ手続きをしていただかなければなりません。

- これらを一元化することを、担当課に指示しましたが、これはなかなか困難であり、先ほど申し上げたようにおくやみコーナーとして専用コーナーを特設するのは県内初となります。併せて、ご遺族への対応は、豊富な経験を有する職員に対応をさせたいと考えています。
- 悲しみが癒えないご遺族が、市役所での煩雑な手続きのために、何度も来庁する負担を少しでも和らげ、ご遺族の気持ちに寄り添いたいと以前から考えていましたが、ようやくこの度その思いが実現することになりました。

次に、「特定空家等の行政代執行」について

- 当市で初めての特定空家等の行政代執行を行います。除却対象の物件は、平成 25 年度から地域要望を受けているもので、所有者等が確認出来なかったために倒壊部分を市で除去するなど、これまで適時、緊急安全措置を行ってきましたが、周辺住民や通行人などに甚大な被害を与える危険性がさらに高まったことから、市議会 9 月定例会で予算案を可決いただき、9 月 25 日付けで除却命令の公告を行いました。
- 今後、高齢者の単身世帯増加等に伴い、空家をはじめとした様々な問題が顕在化することから、既に、当市では、平成 30 年 3 月「新発田市空家等対策計画」を策定して対策を講じてきています。
- 具体的には、空家の適正管理を所有者に呼びかけるとともに、空家バンク制度や無料相談会などを通じて、当該物件の有効活用の取組を進めます。
- 今回は、除却という措置を講じますが、空家を市民の財産、地域の財産に転換していくための方策と合わせながら、市民の安心・安全につなげる取組を進めたいと考えています。

次に、「小学校 5 校の閉校記念式典」および 荒橋小学校閉校記念事業「気球搭乗体験」について

- 当市には、学校統合のため、来年 3 月をもって閉校となる小学校が 5 校あります。具体的には、豊浦地区の 4 小学校の統合と菅谷小学校が七葉小学校に統合予定であり、それぞれの小学校で閉校記念式典が行われます。

- 式典では、これまでの歩みを振り返るだけでなく、児童たちの新たな学校生活の始まり、門出をお祝いする内容になると聞いています。それぞれの小学校には貴重な歴史があり、子どもたちや先生、親御さん、地域住民など、多くの皆さんの思い出がそこに込められています。何にも変え難い皆さんの宝を、胸に刻んでもらえる素晴らしい式典となるよう願っています。
- 式典と併せて、各校では地域、学校、PTAの皆さんが企画した閉校記念行事なども行われます。去る8月30日には、私の地元菅谷小学校の関係者が子どもたちの成長を願い、菅谷不動尊に大わらじを奉納していますが、先日、情報提供しましたが、明日10月10日（土）には、荒橋小学校で気球搭乗体験が行われます。大空に浮かぶ気球からふるさとを見つめ、これまでの思い出や夢を語り合う機会を持つことが目的と聞いています。
- ぜひ、記者の方には取材いただき、荒橋小学校にこれまで関わりのあった多くの皆さんにも、この様子を伝えるお手伝いをいただければありがたいと考えています。

このほかの情報としては、テレビなどでおなじみの「夏井いつきさんのくかいライブ」や、荒川地区の活性化のために住民の皆さんが中心となり企画した「荒川剣龍峡紅葉ウォーク」などがあります。

先月は、Bリーグのプレシーズンマッチとして、富樫勇樹選手の凱旋試合を無事開催することができました。市民の皆さん、特に子どもたちがとても喜んでいる姿が大変印象的で、富樫選手のプレイから、バスケットボールというスポーツから大きなエネルギーをもらったと感じています。今後も、市民の皆様に元気が届けられるような明るい話題を増やしていけるよう、引き続き努力していきたいと思っています。

報道各社の皆様におかれましては、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市をご支援いただきますよう、よろしく願いいたします。